

I 自己評価

1	学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。		
2	評価する領域・分野	生徒指導部		
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・アンケートより、「学校ははじめや差別を許さず、厳しく対応している」の項目において、著しくポイントが下がった。また、「高校生としてのマナーや社会規範を身につけさせる指導を行っている」という項目についても、昨年よりポイントが下がった。		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1)生命を尊重する心、道徳心を持った豊かな人間性、人としての基本的な倫理観や規範意識の育成 (2)部活動の推進 (3)関係機関や地域と連携した生徒指導の推進		
5	重点目標を達成するための校内組織体制	生徒指導部会、特別生徒指導委員会、学年会、教科担任会議、サポート会議、いじめ防止等対策委員会、人権委員会		
6	目標達成のための具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1)今年度で5年目となった「いじめ防止等対策委員会」の内容の充実。あらゆる教育活動の場面で、「いじめは絶対許さない」姿勢を生徒に訴えかける。いじめアンケートの結果等を基に、解決に向けて、積極的に生徒に関わる。 (2)部活動を通じ基本的生活習慣や挨拶活動を徹底させ、帰属意識を持たせることで自己有用感を持たせる。 (3)PTAと協力し朝の交通安全指導や挨拶活動を実施する。	(1)いじめ防止等対策基本方針 いじめ防止等対策年間計画 いじめ防止等対策教員研修会 いじめ防止等啓発活動 (授業、HR活動、行事、部活動、集会等) (2)部活動実績、部活動による清掃活動・挨拶運動 (3)交通事故発生件数、MSL報告書 美濃地区「高校生による交通安全推進大会」の企画・運営		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
	(1)いじめ防止等対策委員会、いじめ防止等教員研修、生活委員会 (2)部活動リーダー研修会、部顧問会議 (3)生徒指導講話、交通安全講話、啓発活動	(1)4年目に入り充実した内容となり、教員の意識も高まってきたか。 (2)部活動の実績も上がり、帰属意識も増してきたか。部単位での善行が増えてきたか。 (3)PTAとの協力体制が整いつつあるか。	A B C D A B C D A B C D	
11	成果・課題	●年間3回実施されるいじめアンケートでは、いやがらせなどが散見された。「いじめは絶対許さない」ことを訴え、学校の姿勢を示し、根絶を目指したい。 ●昨年同様、部活動内での人間関係をうまく築けないなどの問題が多く見られた。多様な生徒が混在することを前提に、きめ細かな指導を心がけたい。 ●MSLを中心に交通安全に関する活動を行った。例年1年生の事故が多いが、今年度は、それに加え2年生の事故が多いことが報告された。さらなる啓発を行いたい。 ○長期欠席する生徒に対する指導について、HR担任、教育相談、部活動顧問等の関係職員で情報共有するなど、連携して指導することができた。		
12	来年度に向けての改善方策案	●道徳観の深長を図るためのアプローチを組織的に行うと同時に、生徒会の委員会活動の活用を検討していきたい。 ●「いじめ防止」、「情報モラルの徹底」、「交通事故の減少」などの今年度の課題解決に向けて、起こさないための事前の予防的な指導を行う。さらには、生徒の良さを日常の活動から発見・自覚させ引き伸ばしていく開発的指導を心がけたい。 ●教育相談、いじめ対策について、保護者に理解してもらえる工夫を更に行う。 ●発達障害やそれと疑われる生徒に対しての理解と保護者と連携し、個に応じた配慮を全職員が共通理解し指導にあたる。 ●職員間の人間関係を良好にし、生徒の指導にあたりたい。		

II 学校関係者評価

実施年月日 平成31年1月23日

・学校評議委員会において、「褒めて自己肯定感を持たせてほしい」という意見があった。今後も褒める・指導するのバランスを考えて、生徒に「関商工で良かった」という思いを抱いて卒業させたい。

